

Market Topics

「辛うじて札割れ回避となった短国買切オ」と「異常な応札倍率の続く新発短国入札」

「短国買切オ」は2月14日(木)・15日(金)とギョーのオアがありました。14日は1兆5千億円のオアに対し、これをやや上回る応札となりました。続く15日は、同額のオアを行ったところ札割れとなりました。18日(月)に、「木金のサイクルではないレギュラーなオア」1兆円が実施され、こちらは札割れが回避されました。「短国買切オ」については、札割れを挟んで、辛うじての札割れ回避となった状況です。しかし、1月の月末を除く応札が、2兆円を超える応札であったのに比較すると、応札に金額的な面での強さが感じられない地合いです。

(1月30日・ならびに2月7日付 Central Tanshi Market Topics ご参照)

<短国買切オ実施状況>

オア-月	上段・オア-日 下段・オア-金額(応札額)								<単位千億円> 上段・オア-回数 下段 合計金額	
	14年 1月 (応札額)	10日(木) 6 (27.7)	11日(金) 6 (28.7)	17日(木) 8 (31.4)	18日(金) 8 (26.5)	24日(木) 12 (27.8)	25日(金) 12 (21.2)	29日(火) 5 (4.99)	31日(木) 15 (10.2)	8回
14年 2月 (応札額)	1日(金) 12 (10.1)	4日(月) 5 (1.2)	7日(木) 15 (14.98)	8日(金) 15 (9.76)	14日(木) 15 (16.6)	15日(金) 15 (8.72)	18日(月) 10 (12.2)		(18日まで) 7回	87

札割れ

1回当りのオア-金額は増加

一方、目を「短国入札」に向けてみますと、1月30日以降の新発短期国債の入札には、未曾有の応札が集まっています。入札にかかわる基本的なマーケット地合いは、変わっておりません。短期国債の入札参加者数*は、2月4日現在で335社です。応募額は、中長期国債を含めた国債発行残高を上回った応募額(FB157回・158回:750兆円超)も出ました。また、この数字で、一社当り単純平均応募額を算出してみますと、TB299回については、オア-金額(1.5兆円)に迫る金額(単純平均で1.4兆円)にも達しました。

(*参加者の詳細は、財務省ホームページ <http://www.mof.go.jp/jouhou/kokusai/kk021a.htm>)

実際には、短国入札にあたっては、積極的に応札をする参加者と、応札を行わない参加者がおり、応募額は参加者ごとの偏りが発生している模様です。募入最高利回りにおける按分比率が0.3~0.4%ですと、1兆円で30~40億円の按分となるので、相応のロット確保のためには、巨額の応募を行っている参加者もいるという状況と思われます。

<新発短国入札状況>

<単位億円>							
入札日	回号	募入 決定額	応募額	/	募入最高 利回り	按分比率	(参考)一社当り 単純平均応募額
1月23日	FB155回(3M)	37,058.9	286,690.0	7.74倍	0.0039%	30.3268%	856.8
1月30日	FB156回(3M)	36,778.8	1,138,260.0	30.95倍	0.0019%	2.9470%	3,397.8
2月5日	TB298回(6M)	20,996.2	2,989,020.0	142.36倍	0.0020%	0.6365%	8,922.4
2月6日	FB157回(3M)	38,247.5	7,584,820.0	198.31倍	0.0020%	0.4794%	22,641.3
2月13日	FB158回(3M)	37,713.8	7,655,206.7	202.98倍	0.0019%	0.4698%	22,851.4
2月15日	TB299回(1Y)	14,998.9	4,743,000.0	316.22倍	0.001%	0.2976%	14,158.2

短国入札の一社応札限度は特に明定がない。理論上は機械入力が可能な金額まで応札が可能(100兆円以上の機械入力には不可能)。

足切レートにおいて、応札額に応じて按分で落札額が配分される。按分比率が低いと予想される場合、一定額の玉を確保しようとする場合、応募額を多めに応札するので、応募額が膨らむ。

一社当り単純平均を算出する際の参加者数は、上記の335社を使用。

2月は、今後、20日・27日にFBの入札を予定。

未曾有の応募規模